

# 令和6年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 学校関係者評価書

令和7年1月17日（金）  
学校関係者評価委員作成

## 学校関係者評価委員会【第3回学校運営協議会】

- 1 実施日 令和7年1月17日（金） 午後2時より
- 2 会場 校長室 ※評価委員会の前に、30分程度、各教室を授業参観。
- 3 学校運営協議会委員 河西 隆（若草地区区長会長）  
上田 美弥（主任児童委員）  
神宮司泰子（薬剤師）  
小俣 良子（マコト愛児園園長）  
金丸 浩明（保護者代表・PTA副会長）  
片桐けい子（保護者代表・PTA副会長）  
学校 時田 直人（校長） 有野 清美（教頭）  
永関 修（教頭） 佐藤 誠（主幹教諭）

## 4 協議の内容

※学校評価の結果と改善策について説明後、意見交換を行った。

○…委員からの意見・感想 ☆…学校の考え

○評価結果が高く、教育の運営がしっかり行われている。どの教室も授業が分かりやすい。先生方が自分達で学び合い、日々研鑽している様子が分かった。児童は楽しい環境の中で生活している。CS初年度にあたり、自分の立場からCSについての理解を深めるために、地域の方に説明する回覧を届けた。

○教職員、児童、保護者の評価結果は、中学校より評価が高く、高い意識を持っている。中学校区における小中一貫教育の取り組みにまだ戸惑いがある。折角、小中一貫教育を行っているので、自主学習の捉え方について話し合っていくことも必要である。

○先生方は働き方改革のもと、やるが増えているが大変である。保護者の学校への介入、クレームが増えていると思うが、どんなトラブルはあるのか知りたい。

☆子ども同士のトラブルが起きた時の対応の仕方で、学校の対応と保護者の理解との間にちょっとした行き違いがある時もある。丁寧に説明をする中で理解を得てきた。

○自主学習の進め方として、中学校では学級によって課題がロングスパンで出されているようである。この方法は効果的ではないので、課題を週ごとに出すなど改善していく必要がある。

☆小中一貫教育の推進研究会で、自主学習の進め方について有効な方法を共有していきたい。

- 先生方の大変さが伝わってくる。日々の教育活動に感謝している。子ども達は少しずつ成長している姿が見える。縦割り班の活動により、思いやりや考える力がついていき、子ども同士の関わりが深まっている。
- 小学校から中学校まで英語が実施されているが、英語嫌いが増えているという話を聞いている。英語嫌いの原因となっているものは何かを知りたい。
  - ☆英語が教科化されたことによる影響が大きい。英語に親しむ内容から、5, 6年生の英語では、他の教科と同じように評価しなければならないようになった。スピーキングのテストの実施や、単語テストではスペルを覚えて書けないと評価結果が悪くなるため、児童によっては苦手意識も生まれている。
- 子ども達の印象が変わってきた。元気な子ども達という印象である。個別には挨拶ができるが、学校外の登校中は挨拶ができない子が多い。学校の教室掲示を見ると、授業の内容が面白くなっていることが分かる。これなら楽しいと思える授業が行われている。音楽でも美術でも昔と比べれば面白くなってきている。子どもの感じ方にはずれがあるので難しい部分もある。
- 道徳の授業参観後の教育講演会等への保護者の参加者が減っているので、保護者の意識を変えていく必要がある。地域の集会等への意識も低くなってきているので、学校の保護者の意識を変えていきたいが難しい課題でもある。
- 一クラスの人数が多かった時の学校では、先生がもっと子ども達に関わりをもってくれた。習字の指導では一人一人手をもって指導してくれることもあった。しかし、今年、委員になって学校の様子を参観する中で、教室に入れない児童が多くいて指導に当たっている様子を見ると、先生方の大変さが分かった。
- 自主学習の強化週間では子どもや保護者にとって重荷になるが、保護者が求めるものと学校が求めるものに差が生まれる。そのため、部会を開いて学級の子どもの様子を伝えてもらったり、家庭で行う自主学習の進め方を説明してくれる時間を取ったり、共通理解を深めていくことが大切である。それと同時に、講演会への参加意識等、親が子どもにかかる時間を大切にしていきたい。